

旧町村の施設修繕進まない 藤島体育館のトイレや屋内運動場の雨漏り

藤島体育館の修繕すべき箇所が増えていきます。鶴岡市の体育施設の指定管理者となつていく市体育協会では、年度内の予算の範囲で、市全体の施設修繕の優先箇所を考えて実施したいとしています。

2階の男子トイレは3カ所がセンサー故障で水漏れすることから使用禁止です。

屋内運動場は雨漏りが発生し、大型ガラスの破損では段ボール紙で塞ぎ、トイレは天上写真(上左)藤島体育館・屋内運動場。(上右)同トイレ天井が破損。(下右)同大型ガラス破損。(下中)アリーナ玄関の戸が半開き。(下左)同2階トイレ。

が破れていて入れませぬ。

鶴岡市の体育施設の指定管理者となつていく市体育協会では、年度内の予算の範囲で、市全体の施設修繕の優先箇所を考えて実施したいとしています。

男子トイレのセンサー故障は、業者のTOTO(株)が本社から来るので見積もり自体が高額になり、発注を躊躇している状況で、地元業者に修繕が可能かを調べてもらつており時間がかかっています。

市町村合併で周辺となつた旧町村は、公共施設の修繕が進まない事態になつており、利用者から批判の声があがっています。

軍国教育の話 ①

大沼 浩

かつて地名について玉稿を連載していただいた大沼さんから「成澤功さんの「特高」は全く知りませんでした。歴史の片影で成澤さんに御礼申し上げたいです。加藤鈺一さんの原稿募集を見まして私も一文を作ってみました」との手紙があり同封されていきました。

☆☆☆

私は昭和16(1941)年に鶴岡中学校(現鶴岡高)に入りました。12月太平洋戦争が起きました。昭和39(1

私の昭和 21

鈴木重雄(88歳・八色木)

農作業

どこの地主もそうだが稲づくりに適した田圃は小作に出し、屋敷続きの収量の上がらない所は自家で作っていた。排水、水掛の便も悪く、初期生育は過繁茂になり雑草が生え収量の少ない田圃である。

戦後、食糧難のとき農家に米の出荷を強制した。昭和22年強権発動され、収量の上がない田作りは借りて責任を果たした。

殿様が省力除草の視察に来るので畜力除草の実演をすることになった。爪のついた5条の除草機を馬に引かせる。馬の歩く株間は1尺2寸(36センチ位)。両側は普通の並木植えである。馬が稲を食べないように口に綱袋をつけて引かせる。泥で苗が

方向転換の時技術を要した。除草機を馬と人が引つ張り合つて宙に浮かすように転換する。馬が力をゆるめてバックすると苗を踏みつぶすから前に進むように調整する人馬一体の作業であった。

おとなしく力持ちの馬が上手であった。お殿様も見学していたので緊張した。

日向家には土蔵造りの蔵が3棟あった。その内の1棟を農作業用に改造し村人の共同場に改造した。

脱穀調整に昼夜を問わずの作業である。食料も逼迫していたので早場米出荷で奨励金稼ぎに精を出した。

964)年に鶴岡高専に勤めました。高専前に延味クリーニング店があり、後に元店主・延味さんが出てきます。

鶴中の東側は広いグラウンドで、一段高く体育館が横側を見せていました。鶴岡公園の濠に面した門から入って奉安殿(戦前の日本で、天皇と皇后の写真“御真影”と教育勅語を納めていた建物)を回ると昇降口があり、控室と呼ばれていた体育館に入りました。北は用具庫で、その上の

中2階はグライダの格納場所でした。用具庫と背中合わせに銃器庫があり、三八式の銃や木銃が並んでいました。

私たちの学年から服装が変わりました。学生帽は戦闘帽になり、脚にゲートル(脚絆(きやはん)木綿・麻・皮製ですねに巻く物)を巻きました。制服は、夏は小倉、冬は黒ラシヤでしたがカーキ色になりました。

(つづく)



「戦争法廃止を求める統一署名」藤島で11193筆(2月末)
ご協力に心から感謝します。まだの方は4月中旬までお願いいたします。

まやかしの札束

（新町 齋藤留治）



初めてタイに行った時（1回しか行った事がないが）、現地のお金が無いと困るのではありません。思い空港にある両替所で1万円札を現地通貨（バーツ）に替えてもらった。

タイ通貨が日本円より格段に安いということとは知っていたが、1枚の万円札を出したのに窓口の係員は何十枚かの札を数えて私に差し出した。

その時、一瞬いぶかったが「これは儲かった。俺は金持になったのかな。」という錯覚を持ったが、その当時、タイはインフレで庶民の暮らしは火ダルマと言われていた時代。街に出て飲み水を買っても、ちよつとした物を買っただけでも札は飛ぶよ

うに袋から出て行き、袋はあつという間に空になった。

私の金持ち気分はどこかに吹っ飛んで行ってしまつて、インフレとは恐ろしいと思つた。

アベ晋三首相からはこれまで「円安・株高・成長の果実等々」によつて、庶民や中小企業者にも、富裕層や大企業からオコボレが滴り落ちて（マルチダウン）、市井の人々の生活にも希望の光が当たるよう

な時代遅れの政策を、猫だまし（相撲の一手）のように聞かされてきたが、もういい加減私の耳にもタコが出来た。やっぱり落ちてきたのは庶民が望むようなものでは無く、格差社

野党選挙協力の具体化進む

29日に民主党県連との連携を確認

—しんぶん赤旗を読んで 青山崇

先号に、藤島地区で署名が1000名を超えたことと5野党選挙協力合意の記事が載つた。そして5野党幹事

会の深刻化、物価高、子供の貧困、非正規労働者の増加等々、弱者から吸い上げた果実をただけではないかと思える。

数年前に円高経済を経験したが、円が少しばかり高くなつても困ることは無かつたし、政権が諸悪の根源のよ

うにのたまうデフレ経済でも、むしろ今より安心して暮らせた気がする。日銀総裁がのたまう2%の物価上昇で困るのは我々。タイで手にした札束より枚数は無いがカナダやオーストラリアで手にした札の方がよほどまし。ある記事で読んだ故事「苛政（悪政）は虎よりも猛し」は、今の政治を言い当てていると思え

長・書記局長協議がスタート、毎週開催することになった。

今回は、①安保法制の廃止と集団的自衛権行使容認の閣議決定撤回を選挙公約とする。

②選挙協力で踏み込むのだから、各党が政権問題を国民にどう説明するかを協議していくこと。

③選挙協力体制を進めていく上で、大きな党は小さな党の要望をくむ努力をする。

④参院選1人区での候補者調整を優先させ、民主、共産2党間協議

を開催することも確認した。

山下芳生（よしき）共産党書記局長は記者会見で、安保法制の廃止という共通の旗印が立つたのでテンポ感がある協議になった。こういう高いステージに立たせた国民に希望を広げられるよう努力すると語つた。

元最高裁判事浜田邦夫さんは「大義のため各党がこれまでのお互いのわだかまりを捨て、真摯に協力すること」と、旧藤島町議会の元



軽減税率の「まかし

過日の「軽減税率の「まかし」という学習会で知ったことは・

▲軽減税率は、消費税率を引き上げたい自公が国民を誤魔化すために仕組んだものであり、軍事費拡大への対応が目的であること。

▲自動車などの輸出会社は、外国からは消費税は貰えないので、その金額を国から貰っているんだと。そのため豊田税務署・神奈川税務署は、入金より出る金が多く、トヨタ・日産に金をくれる税務署になつていていること。

▲軽減税率に該当しても材料・電気・加工・運搬・保管・卸と、商店で売るまでの間は、10%でくるから物価が安くはならないということ。ここが大事。

▲インボイス方式を取り入れるとしているが、免税業者は書類を出す

議長の大田榮市さん（藤岡）は「安保法制廃止は国民・野党の最大公約数、是非実現させたい。」と語る。

「共産党アレルギー」を持ち出すむきもあるが、今は両者の言う立場に立つべきである。

県選挙区では、25日、本間和也共産党県委員長が記者会見し、民主党、社民党、元職で無所属立候補表明者、連合など労組や市民団体などと協議を進めると語り、29日に民主党県連との連携を確認した。

責任がないから、消費税を納める業者からは敬遠される。従つて免税業者は取引から排除される危険性がある。

▲軽減税率が入ることによつて税の計算は厄介になる。正確でなければ税務署から怒られるし、誰にも褒められない仕事が押し掛かる。

▲インボイスの採用は、事務の煩雑化や商品の管理システムの変更など金がかかつて零細企業は廃業が出てくるだろう・と言う。これを担当大臣が認めたぜ。

▲国民経済のいつそうの疲弊・愚かなる消費税10%など、各界から批判あり。アベ内閣打倒で参院選頑張ろう。

▲ある大学の先生の論文では、アベさんの好きなアメリカには消費税がないが、給料を上げることで経済が良くなったということ。共産党が言ってきた、消費税に頼らない経済復興はあつたんですネー。

（石川）



しんぶん赤旗2月27日付

真実を伝え ハッキリもの言う

『赤旗日刊紙』をぜひどうぞ（月3497円）